資料 1

令和 6 年度事業計画（案）

事業年度　令和 6 年 1 月 1 日から令和 6 年 12 月 31 日

NPO 法人小児がん・まごころ機構(MOCC)

1　事業実施の方針

予てより事業実施の方針として堅持してきた以下の 3 つの方針を令和 6 年度も堅持する。

I. NPO 設立当初より継続してきた ICT を活用した日本における永続的な小児がん長期フォローアップの仕組みの確立に向けた事業
II. アジア小児血液・がん治療研究グループ（通称：APHOG)の活動及び事務局機能の担務。また、1. の活動により得た知見をアジアにおける小児がん長期フォローアップに生かし、それを支援する活動も含める。
III. WHO(世界保健機関)及び SIOP/SIOP-Asia と緊密に連携し、「WHO The Global Initiative for Childhood Cancer（通称：GICC）」(2030 年までに世界の小児がんの治癒率を 60%以上に上げる。2018 年発表)を推進するため、国内外における啓発・広報活動を行う。

この主要 3 方針に加えて、今期は MOCC の活動、並びに MOCC 自身の一層の知名度向上を図るため、ブランディング、資金調達の多様化への取り組み、資金調達の目的を明確にすること、また、財政基盤の堅牢化、そして、それらを支える組織の整備に取り組む。

2　具体的実施事業について

2.1　日本国内事業

①　WHO GICC の日本国内およびアジアでの啓発・広報活動

➢　2024 年 2 月 4 日(日)

ICCD 国際小児がんデー・イベント
主催:MOCC,APHOG
共催:SIOP/SIOP Asia, Amazon Japan GK
会場：ホテルニューオータニ佐賀

➢　2024 年 6 月 24 日(月)

SIOP Asia 2024(16th Congress of Asia continental branch of International Society of Paediatric Oncology)開催期間中、年次総会、セミナー等を開催

➢　2024 年 9 月 8 日(日)

国内およびアジアにおける WHO GICC 啓発イベント(Global Gold September Campaign)
主催: APHOG,SIOP Asia, MOCC
共催：Purple Songs Can Fly Japan
後援：厚生労働省、国立がん研究センター、国立成育医療研究センター、他
会場：国立がん研究センター　　　※令和 7 年度は名古屋開催予定
同時通訳:日・英
方針：アジアの小児がんに関する啓発に努めたい。また、同時に募金活動を実施。

- グローバルに小児がん経験者及び家族や一般人を対象とした講演、オンラインビデオによる啓発活動等

② 日本における永続的な小児がん経験者の長期ケアおよびサバイバーシップに関する仕組み作りを引き続き実施・確立するための支援活動

③ 海外人材育成支援事業に向けた取り組み ・アジアを中心に小児がんに関わる人材育成の支援事業を日本国内ないしはアジア先進国にて着手するべく検討を実施
例：学会参加、短期研修、一部補助など

④ 広報活動
ホームページの更新
- 広報、寄付金集めのプラットフォームとして、合目的的に改良
⑤に述べる会員制への対応
- ニュースリリースの業務フロー化
各実施活動に対して、ニュースリリースを作成、適宜、PR TIMES 等でリリースする体制作り
- SNS 活用
Facebook,Instagram,LINE,X 等 SNS のマルチメディア化。定期発信ができる体制作りを実施する

⑤ 認定 NPO 取得に向けた活動、会員制の整備
寄付金控除の対象となることで寄付を容易にする狙い。
認定 NPO 法人化の要件である PST（Public Support Test）絶対値基準「実績判定期間中のすべての事業年度で、3,000 円以上の寄付者の数が 100 人以上」を 2023,2024 年度で達成する。
また、毎月定額寄付をしてくれる方を対象とした会員制並びに会員だけの特典の創設を実施、2024 年度から試験的に開始。

⑥ （新規事業）無・低関心層に向けてのアジア小児がん・長期ケアおよびサバイバーシップの啓発活動
【主旨】
草の根的な啓発活動の試行。敢えてアジア小児がんとしたのは、他の小児がん団体との活動の差別化の

ため。いずれのイベントも MOCC が主催し、MOCC 知名度向上と資金調達多様化を図る。

【概要】
頻度：年間 3-4 回
財源：協賛を募る方式
後援対象：アジア諸国大使館
イベント案：
・アジア小児がん患者オンライン参加による音楽会
・プロ野球球団や他のスポーツ、文化団体とのコラボイベント
・クリスマス音楽会

⑦　その他、Vision・Mission 達成に向けた活動

2.2　海外事業
アジア小児血液・がん治療研究グループ(APHOG)の事務局機能を担いその活動に対する支援と資金集めを行うと共に、 WHO GICC の啓発・広報を進めるための活動を行う。

2.3　資金調達
資金調達の目的を明確にすること。
（例）
➢　WHO GICC を念頭に置いた、創薬、臨床治験、臨床試験などの支援
➢　小児がんサバイバーシップの支援活動、特に ICT を使った活動（PHR（Personal Health Record））
➢　その他

①　寄付金
➢　法人
・一本釣りで個別訪問（法人会員を創設して、毎年度、定額を寄付してもらうことを狙う）
・寄付金ないしは HP にバナーを貼り付ける等広告宣伝費
➢　個人
認定 NPO 法人化前は税制メリットないため、まずは、3,000 円を一口、100 名を目標に活動。
②　イベント協賛
③　クラウドファンディング
④　ふるさと納税を活用する方法（既存、継続）
⑤　その他

2.4　組織体制
①　人材拡充

広報活動、資金調達活動のために人材を充実させる。
固定報酬を払わないボランティア活動を原則とする。
但し、担務に応じて固定報酬やインセンティブ報酬を支払うことも検討する。

② リテラシー向上

活動の担い手である事務局スタッフの小児がんへのリテラシーを高めるため、研修的な機会増設、小児がん患者、家族との接触の機会を設ける。

例：

- Purple Songs Can Fly Japan とのコラボレーション
- 第二のアニタさん発掘：小児がんサバイバーの歌手の発掘（まずは日本、次にアジア）

2.5 活動のスケジュール、タスク化

① 活動スケジュール別紙

② 各事業の着実な実施のためにタスク化とそのチェックの体制を構築

- 各事業に対して PDCA サイクルを回す

Plan（計画） ：従来の実績や将来の予測などをもとにして業務計画を作成する
Do（実行） ：計画に沿って業務を行う
Check（評価）：業務の実施が計画に沿っているかどうかを評価する
Action（対策・改善）：改善点を検討

- 各施策の進捗状況チェックと改善のため、報告体制（何らかのソフト使用計画）と定期的な Meeting の実施。